

令和元年度第2回定例会

日 時： 令和元年6月11日（火）午後3時35分から午後6時05分

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、副会長、委員4名

欠席者 委員1名

（事務局）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査2名、サービス係長、子ども読書支援係長、地域資料係長、総務係長、担当職員3名

会長 本日は委員1名から欠席の連絡が入っている。委員6名が出席のため、多摩市図書館協議会規則第4条により令和元年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。事務局より配付資料の確認をお願いする。

事務局、図書館長より配付資料の確認。

会長 議題1、平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について、事務局より説明をお願いする。

図書館長 今年度より前年度事業計画の評価の実施を、図書館協議会からの意見も伺いながら決定した。

この事業計画の評価の進め方について説明する。

議題1「平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について」資料2-1-1を説明。

本日は図書館の自己評価等を説明する。そのあとご質問やご意見などをいただき、意見のまとめを資料2-1-4の様式の項目に記し、次回6月28日の図書館協議会で協議いただいて、最終評価をまとめていただく。このような流れで進めたいと思っている。

自己評価の説明。

資料2-1-3と2-1-4を説明。

全部で6項目あり、1項目ずつ説明し意見をいただきたい。1つ目の項目は、1ページ平成30年度の目標事業1項目の「基礎的活動に係る事業」。多摩市の貸出冊数等は全国でも高い水準であるが、近年は貸出冊数の減少傾向が続いている。平成30年度は図書館システムの更新による利用者サービスの向上で、未利用者を新たに取り込み、貸出、予約・リクエスト、資料についての相談の利用増に取り組むことを目標とした。

取り組んだ内容は、システム更新での新しい機能の追加。また新しい機能の使い方は窓口での案内や「やまばと通信」などで行った。貸出者数、貸出点数は前年度より減少、予約・リクエスト件数も減少し、相談・予約件数は前年度より増加した。

自己評価では、評価「C」。取り組み通りに実施が出来なかった。

新しい機能を追加し図書館システムの更新を行なったが、利用状況に影響はなかった。図書館システムの更新は、必ずしも利用者のニーズに沿った対応とは言えず、新機能などの説明も案内が不足し、サービス向上の目標は達成できなかったと自己評価した。新規パスワードの登録者数の増加や新着図書館案内や資料紹介の新しいホームページの内容は利用されている傾向であるが、システムの画面や詳細検索が出来るところなど、利用者からは使い方が分りにくいとの意見もあり、案内が不足していたことが課題と考えている。

会長 1項目目は「基礎的活動に係る事業」である。システムの更新により利用者の利便性が高まることで、貸出冊数等の増加が期待されたが、思っていたほどではなかった。貸出冊数等の数字も含め示されているが、委員の方々の評価あるいは意見、質問があればお願いしたい。

副会長 貸出者数、貸出点数は5年間ずっと減少傾向である。これは多摩市だけではなく全国的な傾向があることはデータで分る。社会的な環境の変化、子どもたちを取り巻く色々な環境に影響があると思う。昨年度システム更新がされても減少。5年間の減少数は大きく、人数で約2万人、点数では約10万冊である。この大きな減少をどう分析するのか、今後のことを考えるうえでとても重要である。そのあたりも意見交換ができれば良い。図書館や私たち利用者もどう考えるか。議論したいと思う。

もう一点、相談受付件数だけが伸びている。この1年間で7千件伸びている。これはデータの取り方が変わったのか。クイックレファレンスも含めての数字だと思うが、なぜこれほど伸びたのか聞きたい。

会長 相談受付件数が増えたことについて、何か要因があればお聞きしたい。

図書館長 レファレンスの件数を正しく記録するよう周知をしている。簡易な質問も含めて数えているが、質問の内容は記録していない。簡単な質問から難しいレファレンスまで併せて数えている。今後は改善していきたいと考えているが、具体的な改善方法はこれからの検討になる。簡易なものまで記録すると職員の負担になる。簡単な質問も件数に入れたことで、数値の増加に繋がっているのではないか。

会長 平成25年から、簡単な質問も数えるように職員の意識が変わったことも手伝って、この5年間増え続けているとの説明であった。もう一つは貸出者数並びに貸出点数が大きく減少していることについて意見をいただきたい。

委員 各自治体あるいは全国の公立図書館の延べ貸出者数や延べ貸出点数を各自治体の人口あるいは全国の人口総数で割って人口当たりの延べ貸出者数や延べ貸出点数を算出してみる。そうすると、多摩市の場合は、人口は年々横這いないし微減という状況なので、人口当たりの延べ貸出者数や延べ貸出点数は減少ということになる。さらに、武蔵野市などの多摩市と人口規模が同程度の自治体の、あるいは全国の人口当たりの貸出者数や延べ貸出点数も減少傾向なのか、そのあた

-
- りを少し検証してもいいのではないか。それで、それらの減少傾向が明確であるならば、システム改善の周知以外に、レファレンスサービス等によって一層貸出者数や貸出点数の増加に繋げるような施策を図るなども検討してはどうか。
- 会長 人口については私も確認したが横ばいになっている。人口一人当たりの貸出冊数を見ても減少傾向である。他の自治体ではどうなのか。その視点でのチェックは必要だと感じる。
- 委員 評価が「C」になっているが。利用者数は減っている、貸出点数もかなり減っている、単純に一人が借りる冊数が減っていると考えて良いのかどうか。利用者数、貸出冊数に比べ相談件数が伸びているということは、相談することにより自分の借りたいものが明確になり、貸出冊数が減ったということは考えられないか。新しくシステムを導入した中で、相談件数が増えている事を考えれば「C」でなくても良いと感じる。
- 会長 Cではなく、より高い評価であっても良いのではというご意見であった。
システムを更新したが、利用者から他のニーズや要望が出てきている訳で、予定していたサービス向上が図れなかったということが図書館側の評価であった。図書館協議会としての評価は「B」であっても良いし、図書館の評価と同じ「C」であっても良い。委員の皆さんに貸出冊数等の実績と図書館側からの自己評価も参考にしながら判断いただきたい。
- 委員 レファレンスの件数について、増えることは非常に良いことだと思うが、この文書では記録者である職員の意識が変わったという書き方をしている。それは聞かれたことを一つ一つすべて記録しているのか、あるいは利用者に向けてレファレンスをしてもらう働きかけを変えたのか。そのような変更の数字も出ているのか、単に職員の記録の仕方が変わったので増えたのか。
- 企画運営担当主査 記録の仕方は変えていない。職員にレファレンスを記録するように意識付けをしている。
- 委員 そうであれば必ずしも件数が飛躍的に増えたということでもない。厳密に記録を付け始めたということ。
- 企画運営担当主査 本館、関戸図書館、永山図書館では相談コーナーという名称にしている。
- 委員 図書館に行き、こういう本を探していると尋ねると丁寧に教えてもらえる。図書館に行けば色々な案内はいただけるが、私が図書館に行き職員の方に会えるのは年に2回か3回、「やまぼと通信」をいただけるのも年に2回か3回、そのあたり何か工夫することで他の分野との交流など活用ができるのではないか。
- 会長 1つ目の項目は、図書館の活動全体を表す数字などで評価することになる。個々の活動の成果も出ていて、一概にその部分だけで判断するのは難しいが、今回はそのような性格のものだと理解し評価しようということである。

本日はご意見をいくつもいただいた。ここまでの議論では「A」にはならないと思うが、これまで提示した意見を事務局で列記していただき、それを踏まえ次回の定例会で評価を考え、判断したい。

では、2つ目の項目に移る。

図書館長

「2 多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業」、基本目標(1)「だれもが使える図書館」という基本目標。「より利用しやすくするための配慮」ということで乳幼児を連れた保護者への配慮というところ。こちらは具体的な提案にはいならず、変更は実施できなかった。2番目の「若年世代の利用促進」は、7月のコンピュータシステムの更新に併せ、図書館ホームページに従来の子どものページの他に、「ティーンズのページ」を改めて新設した。ただ中身の充実までにはいたっていない。

例年職場体験は受け入れている。実習内容にはその後の継続的な図書館利用にも結びつくよう、中学生に向けたおすすめ本の紹介POPの作成、オンラインデータベースの紹介など、図書館の便利な使い方というのも実習の中に入れている。中高生の参加型イベント開催に向けた情報収集、検討も行った。3番目は、「多文化サービスの充実」。こちらは学校図書館司書研修において外国語資料に関するアンケートを実施し、資料の購入の参考とした。また、多摩市国際交流センター、文化・市民協働課など関係する課と意見交換し連携について検討した。

自己評価としては、乳幼児を連れた保護者への配慮は、設備面での変更は容易ではなく、変更案は出せなかった。外国語資料に関してはアンケートを実施し意見交換を行い外国語資料の購入をした。また、多摩市国際交流センターの広報紙に本の紹介等の掲載を始めた。

評価としては「B」で、取り組み通りに実施はしたが課題が残ったものもあった。

会長

取り組みと図書館の自己評価が似たような表現になっているところがある。取り組みには取り組んだ内容の事実を、自己評価はどう図書館は考えたのかという書きの方がより適切かと考える。

基本目標(1)「だれもが使える図書館」という大きな目標の中で取り組みが3つあった。委員の皆さんのお考えはいかがか。

副会長

乳幼児を連れた保護者への配慮で、具体的な提案にはいならず変更を行なえなかったという結果だが、文庫連の中で話で、永山図書館はお話し会の参加者が多い。諏訪で団地の立替があり若い世代が増えて利用者が多い。図書館内児童コーナーでのお話し会では、ベビーカーの置き場がなく困っているようだ。永山公民館4階の和室で行う場合には和室外側の廊下に並んで置けるが、図書館では置き場がないとの話があった。もう一つ本館は児童室の外側にベビーカーを置くことになっているが、その案内が不十分ではないかとの意見があった。

会長

今、副会長が挙げたような市民のニーズ、あるいは施設面での課題は、図書館

	<p>で把握しているという理解でよいか。そういった課題がいくつも列挙されているが、解決には至っていない結果としての評価ということによいか。</p>
図書館長	<p>今回の取り組みでは、声を出しやすい子ども連れの保護者の利用に配慮して、書架の配置など変えられないかとの考えであった。施設面の課題は難しいところがありできなかった。関戸図書館ではティーンズが勉強に使う活動室への通路をティーンズコーナーにした。乳幼児に限らずできる工夫はしているが、目標とした乳幼児を連れた保護者への配慮はできなかったという結果になった。</p>
会長	<p>乳幼児を連れた保護者への配慮のさらに下に小さな目標を明示し、新しいニーズがあれば付け加えて解決していくといったサイクルを回す必要があるのではないかと思った。</p> <p>若年世代の利用促進に掲げられた職場体験は、継続して行われていることから重要な位置づけであると考えられるが、中高生参加型企画は、情報収集して検討したとなっているが、その結果を踏まえ、今年度何らかの形で実施するのか。</p>
図書館長	<p>今年度の実施は考えていない。中高生を中心として広報紙の作成やイベントの企画など他市での実績はあるが、実施には図書館内に担当者を設けたうえで活動できるようにする計画が必要であると考ええる。そこまでまだ準備が至っていない。今年度も引き続き検討をするという状況である。</p>
副会長	<p>職場体験について、実績をみて非常に驚いた。多校にわたり多くの人数を受け入れしている。図書館は人気があると聞いている。時期が来ると中学生がすごくうれしそうに体験していて、私は高く評価をしたい。ここは「A」でよいと思う。</p>
会長	<p>図書館の自己評価は、取り組み目標の1、2、3の1が実施できていないという結果であった。私たちも改善点があるとの認識を持ったが、2と3は、実施すべきことは実施し、それ以上のことも実施されていることから、図書館による自己評価の「B」は妥当と思われる。</p> <p>それでは基本目標2についてお願いしたい。</p>
図書館長	<p>基本目標の(2)「子どもへのサービスの充実」について、主に多摩市子どもの読書活動推進計画の推進に取り組んだ。各推進連絡会の開催、第三次計画に定めた具体的な取り組みの推進のため、図書館関係課、市立小・中学校の各々が、実施方法と時期の検討を行い、アクションプランにまとめることを大きな目標とし、作成できたところである。多摩市子どもの読書活動推進計画の重点施策である「支援の必要な子どもたちへの取組み」は、関係する発達支援室、教育センターとの今後の取組みについて会合を設け意見交換を行い、LLブックの購入を決定した。おはなし会などの実施、多摩市の「マチカゴ」アプリを使ってのPRにも取り組んだ。特別なおはなし会、外国語のおはなし会やプレママ・プレパパ向けの講習会などの取り組みを進めた。児童書の選書は、廃棄、買い替えを進め、児童書書庫の整理を実施ということで、評価は「A」となった。</p> <p>LLブックについて、各学校の特別支援学級に団体貸し出しをするという目的</p>

で副本購入を進めた。

会長 基本目標の2について、子どもへのサービスはこれまでも行なわれてきて、資料2-1-3を見ても、多くの取組みが行なわれていることが分かる。継続だけでなく新規事業も行ない意欲的に取り組んでいることが見て取れる。

第三次計画の初年度にアクションプランを作成したとあるが、第二次計画まではアクションプランというかたちでの情報共有はなかったという理解でよいか。

図書館長 そのとおりである。これまでは計画から具体的な取組みに落とし込んで、それを計画期間の中で着実にこなすことができずにいた反省がある。それを今回の計画では着実に実施するためアクションプランを作成した。

会長 目標を掲げて、それを小さな目標に行動計画を作り、実施していく。その事業にもかなり意欲的に取り組んでいることが分かる。自己評価は「A」となっているが、私も評価は高くして良いと思う。

皆さんからもご意見をいただきたい。

委員 新しい事業でプレママ・プレパパ対象の事業を実施とあるが、目的は非常に良いと思うが、参加者が少なかった。今後の展開はどのようにしていくのか。

図書館長 プレママ・プレパパを対象とした取組みということで講座を実施したが、対象者が限られPRが上手くできなかった。また本館で実施したが、妊娠されて一人目の出産を迎えるという方が、普段利用していない本館に足を運ぶことが難しかったのではないかと。今後は、健康センターで開催している両親学級(パパ・ママ学級)へ出向くなり、そこでPRをした上で開催するなどを考えていきたい。関係する健康センターとの調整も行っている。

委員 武蔵野市はブックスタートというのをやっている。乳幼児3・4ヶ月の検診時に絵本とかアドバイス集やブックリストとか図書館案内等をセットにして話しをしながら渡している。今年の実績では1195組渡している。そこに行くと実際に会って話すことができるし、そのような機会がないとPRは難しい。

図書館長 ブックスタートは、多摩市も実施している。検診時に本を配ったりしながら読み聞かせもしている。その事業を充実させた方が良いのか、引き続き検討していきたい。

会長 このプレママ・プレパパという取組みは他市町村でもやっているのか。

図書館長 他市町村でもやっている。妊婦向けの読み聞かせ、出産前のまだ身体が動けるときに色々な情報を提供したいということで他市の状況も参考にした。

会長 今後どう展開するかは考えていただきたい。

他にご意見は。

委員 プレママ・プレパパは初めて聞いた。良い本を紹介することは大事だと思う。

副会長 児童選書会議のことでお聞きしたい。絵本と児童書の選書会議のやり方について、一時各館の児童担当が選書会議に参加できない仕組みだったが、元の各館から担当が参加し週1回本館で開催する形になったのは良かったと思っている。会

	議の中身だが選書会議の改善と書いてあるが、どのように改善されたのか聞きたい。
図書館長	各図書館からも買い替えや副本の提案をしてもらっているが、そのときの提案様式の改善を図り、色々な項目を提案してもらい、選書しやすいよう改善した。
副会長	提案書の様式を改善して、書きやすくしたということか。
図書館長	提案しやすいよう改善した。
副会長	各館の児童担当は出席しているのか。
図書館長	本館、関戸、永山3館の児童担当が週1回集まる。
副会長	3館以外の地域館職員は出席していないのか。
図書館長	出席していない。
副会長	なぜ出席しないのか。
図書館長	選書会議は、本館に集まり会議をしている。全図書館から職員が会議に出席するには、各図書館運営の勤務シフトの調整など難しい状況がある。このことから出席は拠点館の職員と本館の子ども読書支援系の職員としている。
副会長	先ほどの提案様式が各地域館から上がってくる。それを出すことができるので、ある意味人は来られなくてもフォローできている。その理解で良いか。
子ども読書支援係長	そのとおりである。もう一つ買い替え購入は以前各図書館から発注できたが、それを選書会議に提案や情報を集め購入決定をしている。
会長	その変更の一番の目標は何か。選書会議に情報を集め整理して、買う、買わないを決定することか。
子ども読書支援係長	選書会議で情報を一元化して、全体の購入だとか買い替えの中味を把握したほうが良いということである。
会長	多摩市としての図書館コレクション全体を見渡すことと、各館の要望が反映できる仕組みになっているということか。
子ども読書支援係長	直接参加しなくてもその希望は届くようにしている。
副会長	児童選書会議に各館から集まれない時に、おはなし会で使われるような本の副本対応がとても希薄になった時期があった。それを解決するために選書会議を元の形にして、良いものを選び副本を揃えていく体制ができることが望ましいと思う。限られた予算の中で良い選書をしていくことは大事なこと。地域館のニーズもどう吸い上げていくか考えてほしい。
会長	改善の方向性は見えているが、ほかにも改善すべき点があるのではないかというご意見であった。評価に際しての一つの意見として記載いただき、次年度以降の活動に繋げてほしい。 次に基本目標3について、取組みが5から8と4つある。事務局から説明いただきたい。
図書館長	5読書活動に取り組む団体の支援。団体の利用に即した図書をまとめて貸出す

セット貸を検討した。学童クラブを対象にしたサービスとして検討を行ない、令和元年度から実施した。

6 読書活動振興のためのイベントの開催。リサイクル本の配布、ガーデンシティ多摩センターこどもまつりでリサイクル市を開催。1月4日から市内図書館で「本の福袋」というイベントを行い多くの貸し出しがあった。その他各館で色々なイベントを実施した。

7 読書活動に関心を高めるための事業の実施。ビブリオバトルの実施。地域資料係がパルテノン多摩と連携し、パルテノン多摩で開催された「調布玉川惣画図を歩く」の展示にあわせ、図書館でも本の企画展示を行なうとともに、講演会を開催。高齢者を対象としたおはなし会などの実施。「調布玉川惣画図」の講演会と企画展示を行なうことで地域資料も貸出件数が増え、利用促進を図ることができたということで自己評価している。

8 地域資料の活用による地域文化の継承。地域館4館と永山図書館において、それぞれの地域イベントに参加。地域イベントへの参加は、コミュニティセンターの運営協議会に出席するなど、図書館運営への理解に繋がっていくと考えているが、図書館の利用促進に繋がるまでには至っていない。

評価は「A」とした。

会長

取り組み項目が4つあり、資料2-1-3に記載された実施結果も多岐にわたっている。館長の話からも、記載された取り組み以上の活動が展開されたことを感じる。

今説明があったこと、あるいは記載内容についてご意見、ご質問があればお願いしたい。

副会長

項目5の読書活動に取り組む団体支援について、これは学童クラブ対象とのことだが、大人の団体には働きかけはしないのか。目標の中に入っていないのか、報告にはないが、大人は考えていないということか。

会長

目標5について、学童以外を対象とした団体を考えていたか。あるいは既に実施しているのかという質問であるが、いかがか。

図書館長

団体への貸出制度は学童クラブ、児童館である。学童クラブや児童館は、本の運送や選書時間が限られるという問題がある。そこを図書館が支援できないかという視点で考えた。今回は、大人向けの団体の検討はしていない。元々学校は団体貸出という制度で本を配送していて、併せて学童クラブへもプラスで配送先を加えることができるのではと考え検討した。

副会長

この項目は基本目標(2)の子どもへのサービスの充実に入れても良いのではないか。トムハウスのコミュニティセンターの図書コーナーは団体貸出をされていて、地域の要望に応え図書サービスをしたいというボランティアの力で行なわれている。ボランティアが自ら車を出して運んでいる。それを図書館が支援することで、希望する各地域のコミュニティセンターや、図書館が併設されていない複

	合施設にもサービスができれば読書の広がり生まれるのではないか。
委員	各地域で、各世代の人たちを対象に各図書館がそれぞれ独自の工夫・視点に基づいた取組みを活発にされ、成果を挙げているということは高評価すべきことである。
委員	このセット貸し、学童クラブはとても助かると思う。図書館が併設されている施設にある学童クラブは困らないが、そのような学童クラブの方が少ない。積極的に声を掛けて進めてほしい。
副会長	取り組み項目6の読書活動振興のためのイベントの開催。関戸図書館において、科学の本に興味がある利用者同士が交流する読書会がこの年度では1回、その前にもあったのかもしれない。この企画は大変良い企画であり、参加人数はまだ少ないが普通の読み聞かせとはまた違った科学の本というテーマで、実は文庫連に関係のある科学の本の専門家の市民が関わってできた会である。その読書会が継続していけば良いが、今年度は継続されないと聞いている。何故なのか。関戸図書館で実施することが難しいのか。本館での開催を関戸図書館は希望しているとのことで、専門家の市民は自分の在住している関戸地域での開催希望との思いがある。図書館側の都合もあると思うが、協力者の意向を生かし継続させていくことが大事ではないか。ひとつの図書館で成功して利用者が増えれば、他の図書館に広げていけば良い。このことについて聞かせてほしい。
会長	昨年は開催されたが今年はまだ行なわれていないため、今後継続されないのではという質問であるが、いかがか。
図書館長	この科学本の読書会は、このような読書会があることを図書館にお知らせいただいた方がいらしたからこそ開催できたものであり、その方が中心となるような開催になると思う。それを全図書館に広め、職員が主になって開催していくことは難しいと考えている。
会長	関戸在住で科学に興味を持ち、このような活動をしたいという方が中心となって昨年度まで開催していたとのことであるが、今年度の開催は予定しているか。
図書館長	昨年度までこの読書会は関戸図書館が企画し開催していた。今年度関戸図書館が開催を予定しているかどうか、現時点で把握していない。
副会長	この読書会の中心となっている方を存じ上げていて、いつでも協力したいという気持ちであるとのこと。関戸図書館では開催するのは難しいということになっているようである。
会長	読書活動振興のためのイベントを誰が開催するのか。図書館が主体的にやることもあれば、市民が中心になり図書館はサポート側にまわり実施するやり方もある。科学本読書会は後者のパターンである。その活動が関戸図書館で根付けば、他の地域の拠点館でも開催できるのではとの副会長のご意見と理解した。ここは市民や地域に役立つ図書館が基本目標なので、そのようなことが実現できるかもしれないとの意見として図書館は受け止めていただきたい。必ずやりなさいとい

うことではなく、この目標に対してはこういうこともできるのではないかと、との意見が出たということで、評価の一つとして記載いただきたい。

図書館の自己評価は「A」である。多様な活動を日常的に多く実施していることが、図書館を利用する市民の興味や関心を引いたり、活動に役立ったりしている。その意味では「A」でも良いと思う。本日出た意見以外にあれば、事前に事務局に知らせてほしい。

次に基本目標4について、取組みが9と10の2つである。

図書館長

9の地域課題解決の支援について、市役所各課と連携した図書展示、講演会などに出張しての図書展示、年間23のテーマにより幅広く実施した。連携した市役所各課から推薦のあった本を購入し蔵書の充実も図った。各課からのパンフレットや資料と図書館資料を展示することで、各市、各課が抱えている地域課題の解決支援につなげることができた。

10のデジタル資料の提供について、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、歴史的音源配信サービスの導入に向け検討を行い、サービスを開始した。地域資料に関しては電子書籍サービスの検討を進め、VHSビデオのDVD化を実施する。電子書籍は、他市の状況の視察や研修への参加を行っているが、この分野について積極的に実施・進めている自治体は多くなく、多摩市の図書館がすぐに実施をしていくという考えはないが、引き続き検討を進めるということで評価は「A」とした。

会長

ご意見をいただきたい。武蔵野市ではデジタル化はどうか。

委員

まだ具体的には進んでいない。色々な意見があり、電子書籍もそうだが、予算が限られている中でどう配分するか難しい。ただいずれにしても避けて通れない問題だと思う。

会長

委員からもあったように予算の問題はかなり大きいと思う。ある程度計画的に進めないといけない。検討や調査に行くのは良いが、それだけでは先に進まない。ビデオをDVD化するのは一つの計画だが、地域資料の何をデジタル化し、それを使って市民や、日本国内、世界にどう発信し、どう利用してもらうのか。目標、計画を長期的に立てておかないと、実現していくのは難しいと思う。

電子書籍については、ただ単に調べるだけに終わらず、それを実現する方策、道筋を考えていただきたい。

パスファインダーは作っているのか。

図書館長

毎年度3つずつ作っていく目標にしている。

テーマとしては2つ決まっている。東京大空襲と引きこもりをテーマに作成する。3つ目は検討中である。

会長

昨年度も3つ作ったということか。

図書館長

3つ作成した。

会長

それも活用しながら他課との連携も実現していくといった取組みが進んでい

	ると理解した。
委員	オンラインデータベースの利用は、従量課金制か。見れば見るほどお金がかかる仕組みだが、武蔵野市ではストップしている。そういう要望はないか。
図書館長	従量課金制はしていない。要望もない。
委員	従量課金制のデータベースを導入すると閲覧数は上がるが、課金制なので普段利しない方が図書館での利用を希望すると、見れば見るほどお金がかかってしまうという難しいところがある。
会長	現在は朝日新聞の「聞蔵」と読売新聞の「ヨミダス」の2つを導入しているのか。
企画運営担当主査	朝日新聞の「聞蔵」と読売新聞の「ヨミダス」をバージョンアップした。
会長	現在、データベースはこの2つということによいか。
図書館長	「聞蔵」は地域面を閲覧可能にした。「ヨミダス」は閲覧できる図書館を全7館と行政資料室に広げた。
委員	これ以外のオンラインデータベースはやっているか。
図書館長	やっている。 「官報情報サービス」と「ジャパン・ナレッジ」と「聞蔵」と「日経テレコン」と「ヨミダス」と「TKCローライブラリー」を入れている。
副会長	電子書籍の現況について情報収集し報告書にまとめたところがあるが、報告書を閲覧できると良いと思う。例えば行政資料室で。
会長	自己評価は「A」となっている。Aは一定の成果があった、Bは成果が少なく課題が残ったという意味であるが、ここまでの議論を踏まえると、この中間あたりかと感じる。一定の成果は上がっているが、検討段階がいくつもある。そのあたりをどう成果として捉えるか。次回までに委員の意見を考えておいていただきたい。 最後に基本目標の5について、取組みは7つある。
図書館長	11の本館機能強化について、平成30年8月に「多摩市立図書館本館再整備基本計画」を策定。現在は基本設計、実施設計の取り組みを進めている。12の図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上とデジタル資料の提供は、図書館システムを正常に稼働させることかできた。13の職員体制の見直し、基本計画の中には運営の体制のところでも方向性を示した。14のボランティア活動の促進は、絵本かたりかけ事業の新規ボランティアを募集した。15の事業計画の策定と点検評価は、事業計画の評価の実施ができることになった。16のICTの活用は、本館再整備を見据えた中でICTタグの導入を予定し、計画を進めている。17の蔵書の適正管理は、適正な貸出冊数についての利用者アンケートを実施。今年度結果を発表することを目標としている。 評価は「A」とした。

会長	基本目標 5 には図書館がきちんと発展的に活動するため実施しなければいけないことが列挙されている。実施が確認できれば「A」となる。取り組み 11「本館の機能強化」では新本館のことや図書館全体の再整備の議論が掲載されている。システム更新も無事終え、いくつも大きなイベントを実施してきたことは評価できる。
委員	会長の意見に賛成だが、その中でやや達成水準に至らなかった夏休み期間中に調べものに来た子どもを対象にしたOPACでの検索方法を教える会。実施したが希望者が少なく、方法や内容に課題が残った。ボランティア受入、活動促進について他市の状況等情報収集は取り組むことができなかったというそのあたりの要因、理由は何が考えられるか。
図書館長	子どもを対象にしたOPACの検索方法を教える会は、やはりPRが不足していた。夏休み期間子どもは来館するが、OPACで検索方法を教えて、それが自分の調べものに役立つというところまでのPRができなかった。周知の問題があったと思っている。 ボランティアの受入、活動促進については、イベントの企画など図書館運営にボランティアがかかわっていくことを、新本館の運営時には取り入れていきたいと考えているが、まだそこに向けての検討に至っていない。
会長	概ね評価はしているが、いくつかの取り組みが不十分であるということを確認いただいた。
副会長	職員体制の見直しという項目で、基本計画に運営体制の整備と職員育成の方向性は示したとなっているが、地域館の運営方法も含め図書館全体の計画として示せていない部分がある。そこは大きな課題だと思う。
会長	13については、大きな課題があるという意見であった。このほか、全体的にどうか。
委員	項目が多い中、内容も濃くすべて完璧に「A」とするのは無理ではないか。大きな項目は捉えられていると思うので、「A」でよいと思う。
会長	全体的に、できているところ、かなり頑張っているところが見受けられる。概ね「A」評価としつつ、最後の判断は次回まで待ちたいと思う。 今日いただいた意見と、このあと皆さんからいただく意見を基にして、事務局でまとめたものを改めてお送りし、次回評価を確認し、決定したいと思う。
会長	議題 2、図書館本館再整備基本設計ワークショップについて、第 3 回目のワークショップで行なわれた内容を元にした説明を皆さんに聞いていただく。ワークショップでの意見により設計の内容も変わっていくようなので、そのことも含め次回以降も意見交換できたらと思う。
図書館本館 整備担当課	基本設計ワークショップについて、ワークショップの 3 回目にお示しした図面について図書館協議会でご議論いただきたい。ワークショップで出た意見も含め

長	てご説明させていただく。
企画運営担当主査	<p>5月11日の第2回ワークショップと6月8日の第3回ワークショップについて報告する。</p> <p>第2回のワークショップは、5月11日図書館本館閲覧室で行い、38名の参加。「図書館でどんなことがしたいか考えよう」がテーマである。</p> <p>資料2-2-3 階構成と各階のゾーニング、グループワークの議論、主な意見を説明。</p> <p>前回の図書館協議会で委員から図書館整備地が土砂災害の警戒区域になっているかとの質問があったが、本敷地は東京都の指定する土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域ではないことを確認した。東京都のホームページに公開掲載されている。</p> <p>グループワークの前には、基本計画検討委員会委員長の立命館大学文学部教授の常世田先生に先進事例の紹介を中心にミニ講演をいただいた。基本構想・基本計画のポイントに触れながら国内外の先進事例の紹介があった。詳細は資料2-2-4。第3回のワークショップは、6月8日図書館本館閲覧室で行い、40名の参加。「図面と模型をみよう」がテーマである。</p> <p>資料2-2-5 これまでのワークショップ意見をどう図面に反映し設計に取り込んだか、グループワークの議論、主な意見を説明。</p> <p>市民説明会について、7月の月上旬に全3回の市民説明会を予定。これまでのワークショップで皆さんからいただいた意見を参考に、さらに設計を具体化し基本設計案としてまとめ、より詳細な平面図などを示して皆さんからご意見をいただく場として市民説明会を予定している。全回同じ内容を予定、第2回は聴覚障がい者の方のために手話通訳と要約筆記を付ける。本館で開催する第3回は保育をつけることで子育て世代も参加いただけるようにしている。基本設計のワークショップの説明については以上。次回6月28日は市民説明会前の検討、進捗をお示ししたい。</p>
会長	今伺った説明など、模型も見ながら感じたこと、感想、議論の一つとして盛り込んで欲しいものなど、ご意見をお願いしたい。
副会長	この斜面の強度について中央図書館をつくる会の会員が心配している。池を支えるための色々な配管が地下に埋まっている。その関係のものを全く触らず工事ができるのか。
図書館本館整備担当課長	具体的な調査は今やっている。そのような指摘も聞いている。配管をどうするかは工事の中で整理したいと思っている。
副会長	今後整理するということか。
図書館本館整備担当課長	設計についてはそのようなことも含め設計している。具体的に配管をどうするという詳細はまだ確認していないが、認識はしている。

長

会長 先ほどの説明で、広場系とか、静寂系とか、それぞれの空間に対する機能が表現されていたが、これについての感想や意見があればいただきたい。

委員 思いやり駐車場は、車椅子利用の方や高齢者などが利用されるという感じだが、隣に自転車の入口や歩行者の入口がある。同じレベルにあるということか。

図書館本館
整備担当課 長 同じ地下階にあり、道路からのアクセスという意味で、バイクや自転車、車、歩行者も入ってくるので、その先のエレベーターにつながるようなイメージ。入ってエレベーターで上に上がるというイメージ。

委員 自動車と歩行者、自転車との関係を考慮しているのか。

図書館本館
整備担当課 長 自動車と歩行者や自転車の関係は、今後整理し気をつけていきたいと思っている。

委員 1フロアの平米数ほどの位か。

企画運営担当主査 1800㎡。

委員 全部で5500㎡か。

図書館本館
整備担当課 長 全部で5500㎡である。

副会長 レンガ坂に沿った駐輪場はどのくらいの台数を想定しているのか。

図書館本館
整備担当課 長 30台位を想定。

副会長 地下階の部分と併せて何台か。

図書館本館
整備担当課 長 どのような駐輪場にするのか、自転車の置き方など最終的にはそのあたりは詰めていくが、今具体的な台数は申し上げられない。

副会長 有料にするのか。

図書館本館
整備担当課 長 そのことも含め検討していく。

会長 今回の設計の特徴の一つとして、真ん中に大きな階段があり、そこがレンガ坂から公園側に向かって開かれていて、つなぐ役割を果たしている。その場所に人が集ってイベントができるというコンセプトをもっている。ただ一方でワークショップに参加された方からは、そのような大規模で人が集まるイベントであるならば、仕切っている場所でするのが良いのではないかという意見があった。あるいは、これだけ大きな階段を真ん中に作ってしまうとスペースを余計に使い、

フロア面積が少なくなるのではという話しも聞こえていた。また、あまり話題には出ていなかったがカフェが本当に必要なのかという話しも出てくるかもしれない。フロアには色々な機能が持たされているので、そういったことに対して率直に感じたこと、疑問に思ったこと、ご意見があったらいただきたい。

委員 新しい図書館への要望がとても多く、すべての要望を取入れられたら良いと思うが、建物の規模や費用の問題もあるのだろうと思う。図書館本来の目的、例えばイベントを開催することで勉強している子どもたちが集中できなくなる。それは図書館の本当の目的から離れてしまうのではないか。何を一番大切にする図書館にするかを考えても良いのではないか。

会長 そのとおりだと思う。図書館としての基本機能は忘れないという点は重要である。常世田先生も基本的な機能は失わないでプラスアルファの新しい活動、サービス機能が付け加わるかたちが、これから出来上がるだろうとお話ししていた。委員のご意見のとおり基本機能をきちんと見つめ直して、それをしっかり作りこんでいくことは、忘れてはいけない視点だと思う。

委員 図面を拝見すると、複合的な施設に思える。基本的機能は重要である。計画では1階については静寂系、2階は広場系になっていて、必要な機能は確保できていると思う。荒川区の図書館は静寂系と広場系の両方がある。全体の計画の中でどう位置付けするかを決めたうえで、開かれた方に向かうのか、その逆に向かうのかを考えたほうがいい。そしてサテライトカウンターについて。実は武蔵野プレイスでも作ったが、人員が足りなかった。メインカウンターを1カ所ずつ用意し、2階にも1カ所、地下1階にも作ったが、最終的に人員計画を検討したなかで手配できなかった。うまく使えればサテライトカウンターはとても機能すると思う。利用者と対面するカウンターが1ヶ所では大変なので、うまくサテライトが使えるような人員体制にすれば、とても有効なものになる。

会長 サテライトカウンターを作るのであれば、同時に職員配置の計画も重要となる。大学図書館でラーニングコモンズを作る時は、ラーニングコモンズにある机を使って、そこで相談を受けるという簡易なサテライトカウンター的なことをやっているところもあるなど、そこは工夫の余地が色々あると思う。委員からのご意見のように、そこに誰が行き何をするのか。その人的な支援をどのように実現するのかという指摘かと思う。

委員 カフェについても、戦略的に考えたほうがいい。従来のようにお茶が飲める福祉的要素でやるのか、もっと新しい考え方をするのか。それこそカフェ自体を図書館の重要な機能として捉えて、飲み物などを持ち込めるようにするのか。付加価値を付けた方が良く、付加価値を付けるのがどうかも含めカフェのあり方を検討した方が良く思う。

会長 ワークショップでの発表で、カフェだけは図書館の開館時間に関係なく運営できるようにして、図書館が閉館中であっても利用できるようにするなど、独立し

た形でカフェを運営するやり方もあるのではないかとの話があった。私が訪問した香港科学技術大学の図書館でも同じような事例が見受けられた。図書館とカフェの間にはガラス壁の仕切があり、図書館が閉館していてもカフェは開いている。図書館開館中は出入りが自由となるなど、やり方は色々考えられる。カフェをどう戦略的に位置付けるかという視点は大切だと思う。他に図書館の機能というところも含めて何かあるか。

副会長 カフェではなくキッチンの機能が市民活動室の中にあれば、料理の本と料理を結びつける活動も考えられる。今までは図書館の中にキッチンがあるという発想がなかった。メーカースペースを入れるのも一つのアイデア。もう一つアートというのもあるかもしれない。食べることとアートを結びつける発想があっても面白い。

会長 最近、都会のオフィスでも、キッチンを作るというところまでできているようである。

副会長 お料理教室がオープンキッチンになっていて、ガラス張りになっている。

会長 書庫は大丈夫か。中央図書館として必要な蔵書を収蔵できるスペースは確保できているのか。この地下書庫では少ないのではないかという意見も出ていた。集密書架にするという話であったが、想定した内容の設計になっているか。

図書館本館 目標冊数は当然クリアされた設計となっている。

整備担当課
長

会長 パソコンの取り扱いはいかがか。利用者がパソコンを持ってきて、Wi-Fiや電源のコンセントを用意するというだけでなく、図書館に来ればパソコンが使える環境も必要ではないか。パソコンの講習会ができる必要十分な台数を備えておくといった、多摩市ならではの目玉があっても良いのではないか。

企画運営担当主査 今回プログラミングができると良いとか Web 会議ができると良いとか、パソコンに関する要望というのが結構ある。そのあたりの要望も含めて検討していきたい。

会長 ぜひお願いしたい。

委員 多目的で、柔軟に色々な活動ができる会議室などは利用目的によっては有償になるようなケースもあるのか。これは運用の話になるが。

図書館本館 会議室の利用が有償になるかどうか、運用の話になるのでまだ検討はしていない。

長

会長 有償か無償かの話とは違うが、このような快適な施設になると大勢が来館し、図書館の活動とは全く関係のない利用が増えるのではという意見があった。それはパルテノン多摩の施設を利用してもらい、他の施設とすみ分けを図ることで、図書館は図書館の活動に使ってほしいということを誘導することが望ましい

	との意見が出ていた。
委員	そこは図書館の本質を外れないことが大切である。
会長	仕切られた場所を作り、そこを予約制とするやり方は一つある。一方で今回提案されているラーニングコモンズで表現されている多目的空間、そこは開かれているがゆえに、いつでも来て使えるという自由、開放的な使い方というのも実現できる。そのような気軽さも逆に使い勝手の良さにつながるかもしれない。新しい試みになるのではと感じる。
副会長	塩尻の図書館では、オープンな使い方ができる場所を作ったが、当初は使い方に慣れていなかった。色々なルールがある公共施設を使っていたので抵抗があったようだ。けれども今は上手に使えるようになり、活発に使われているという話を聞いた。多摩市民もきっと上手に使いこなして行くのではないかと考えている。
委員	塩尻の図書館は「えんぱーく」といい、いわゆる複合施設の走りである。 多摩市の新図書館は単館だが、もちろん基本的な機能を担保するのは当然だが、やはりこれからの図書館は多様な方に来てもらわないといけない。今までの図書館ユーザーが来てくれれば良いという話ではなく、目的利用と状況的利用、目的があって図書館に寄るということではなく、寄ってみたら楽しいことがあるかも知れない、そのようなことを売りにしていかないといけない。従来の図書館利用者だけを相手にして来館者を増やせば良いという考えに立ってしまうのはいけない。図書館としての機能はしっかりしているけれど、さらに多様な利用者にも来てもらいたい。
会長	今は新たなユーザーを見据えた、新しい図書館の機能を目指せるところにいる。 本日は第3回のワークショップまでの様子を紹介し、委員から意見を頂戴した。現在も検討が進んでいると思うが、私たちの意見も含めた検討内容を次回28日の図書館協議会でまたお知らせいただけるという理解でよろしいか。
図書館本館 整備担当課 長	図書館協議会の翌週に市民説明会を予定しているので、資料の準備が間に合えばお示ししたいと思っている。
会長	私たちも市民説明会に参加できる。市民説明会で意見を述べる機会があり、図書館協議会でも意見を述べるができる。今日いただいたご意見のほか何か伝えたいことがある場合は、事務局に連絡しても大丈夫か。
図書館本館 整備担当課 長	ご意見等は、今週中にいただくと助かる。
会長	付け加えておきたいことがあれば、今週金曜日までに事務局まで連絡をお願いした。

-
- 次に報告事項に移る。委員にご報告をお願いしたい。
- 委員 報告事項 1、学びあい育ちあい推進審議会の報告について資料 2-3-1 を説明。
学びあい育ちあい推進審議会の協議事項、「(仮称) 多摩市新教育振興プラン策定に関する意見について」、「令和元年度（2019 年度）東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 3 ブロック研修会について」。報告事項、「休北貝取小学校跡地活用基本方針について」、「平成 3 1（2019）年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について」、「多摩市図書館協議会委員の決定について」について。
資料 2-3-2 (仮称)多摩市新教育振興プラン策定に関する意見について(案)を説明。
- 会長 図書館協議会を代表して、ご出席いただいていることにお礼申し上げたい。
文部科学省の組織が変わり、教育施策にも変化が予想される。多摩市でもそのことを踏まえ教育のあり方を考えていくのだろうと思う。機会があれば委員の皆さんにもご紹介できる時間があれば良いと思う。
報告事項は以上である。他に委員から連絡事項はあるか。
- 副会長 学習会の案内。6 月 2 0 日学芸大学の講師を招いた学習会がある。テーマは「図書館建築を考える」。チラシを持参しているので関心のある方はご覧ください。
- 会長 本日の予定はすべて終了した。これで令和元年度多摩市図書館協議会第 2 回定例会を閉会する。